国立天文台（旧東京天文台）三鷹移転 100周年記念　式典とさまざまなイベント

山　岡　　均
〈国立天文台　天文情報センター　〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1〉
e-mail: hitoshi.yamaoka@nao.ac.jp

2024年，国立天文台は三鷹に移転して100周年を迎えた．三鷹市の手厚い協力を受け，記念式典を皮切りに数々の記念行事を実施することができた．本稿ではそれらイベントについて紹介する．

国立天文台（旧東京天文台）の移転

東京天文台は1888(明治21)年，東京府麻布区飯倉町に設立された．しかし敷地は狭隘で，周囲の都市化で夜空も明るくなり，早々に移転が必要になってきた．その経緯については先人が天文月報に詳細に記されているものを参照いただくのが適切であろう [1, 2].

当然のことながら移転は一日にして成らずで，建物の建設は数年かけて実施された．ではどの日付を移転日と考えれば良いだろうか．これを定めるのには，国立公文書館に保管された書類が役立った．東京天文台から会計検査院に宛てて通知した，「本台の業務は大正十二年九月一日より東京府下北多摩郡三鷹村大字大沢へ移転」（原文は旧字カタカナ）と記した書面がオンラインで閲覧できる *1．同じ趣旨の報告が官報に掲載されたことが天文月報の雑報でも確認できる [3]．これらを根拠に，東京天文台が三鷹に移転した日は1924（大正13）年9月1日，したがって2024（令和6）年9月1日が移転100周年を祝うにふさわしいということになった．

記念式典@三鷹市公会堂

三鷹市の協力もいただいて，国立天文台（旧東京天文台）移転100周年記念式典が，移転記念日である9月1日14時から三鷹市公会堂光のホールにおいて賑々しく執り行われた．来賓祝辞に続いて，土居守 国立天文台長から三鷹市への感謝状が河村孝 三鷹市長に贈呈された（図1）．式典の後には，国立天文台の渡部潤一上席教授，東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の村山斉特別教授

図1　記念式典では国立天文台から三鷹市に感謝状が手渡された．（クレジット：国立天文台）

*1 https://www.digital.archives.go.jp/DAS/meta/listPhoto?LANG=default&BID=F0000000000000564599&ID=M0000000000005050358&TYPE=&NO=（2024/12/1）

が市民向け講演を行い，会場を埋めた来場者を大いに楽しませた．

三鷹市と国立天文台の歩み

さて，三鷹に移転してからの100年間，三鷹と天文台はどのように歩んできたのだろうか．簡単な年表を表1にまとめてみた．

一見してわかるように，天文台が一般に開かれていくのは国立天文台が発足してからのことになる．さらに，三鷹市との連携が強化されていくのは国立天文台が法人化して以降のことになる．その間には，2009年の世界天文年など，契機となるきっかけもあったことが見て取れる．以下で紹介する天文台三鷹移転100周年の記念イベントが数々開催できたのも，三鷹市と国立天文台が手を携えてきたことの発露と言える．

企画展＠天文・科学情報スペース

三鷹駅から商店街を南に徒歩5分，「天文台のあるまち・三鷹」を実感できる場として三鷹市と国立天文台などが共同で2015年に設置した天文・科学情報スペースがある．ここでは記念式典に先立つ8月30日から10月13日まで，企画展「三鷹と歩んだ天文台の100年」が開催された*2．

三鷹移転前後の東京天文台を取り巻く状況を，10枚ほどのパネルにまとめた展示で，商店街を通る皆さんに天文台の歴史を伝えている（図2）．会期後にも後述のみたか太陽系ウォーク連携の展示の中でパネルを残して展示した．なお，国立天文台三鷹キャンパス内の休憩室でも，同様の展示を実施した．

特別展示会＠三鷹市芸術文化センター

10月30日から11月3日には，三鷹駅から徒歩15分ほどの三鷹市芸術文化センター地下の美術展示室において，国立天文台特別展示会が企画さ

表1　天文台と三鷹の100年．斜字は三鷹市が主導した出来事，太字は特に重要なタイミング．[4]–[6]等を参考にして作成．

1888	東京天文台の発足（麻布区飯倉町）
1909	三鷹村に東京天文台移転用地購入
1914	三鷹で天文台の建物建築開始
1921	第一赤道儀室（現存最古）竣工
1924	**東京天文台の三鷹移転完了**
1926	大赤道儀室竣工
1930	太陽塔望遠鏡完成
1940	*三鷹町制を施行*
1950	*三鷹市制を施行*
1988	**文部省　国立天文台**の発足
1996	50センチ公開望遠鏡で観望会開始
2000	三鷹キャンパス常時公開開始
2004	法人化　**自然科学研究機構　国立天文台**
2005	*三鷹ネットワーク大学発足*
	アストロノミー・パブ開始
2007	4D2Uドームシアター公開会議
2009	世界天文年
	国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定を締結
	三鷹市　星と森と絵本の家開館
	みたか太陽系ウォーク開始
2015	国際光年
	天文・科学情報スペース開設
2019	国際天文学連合（IAU）創立100周年
2020	国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定に協力・連携項目を追加
2022	*第34回「星空の街・あおぞらの街」全国大会を三鷹市で開催*
2024	**天文台の三鷹移転100周年**

図2　天文・科学情報スペースでのパネル展のようす．（クレジット：国立天文台）

*2 パネル展のようすはNHKニュースでも伝えられた．https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20240926/1000109449.html（2024/12/1）

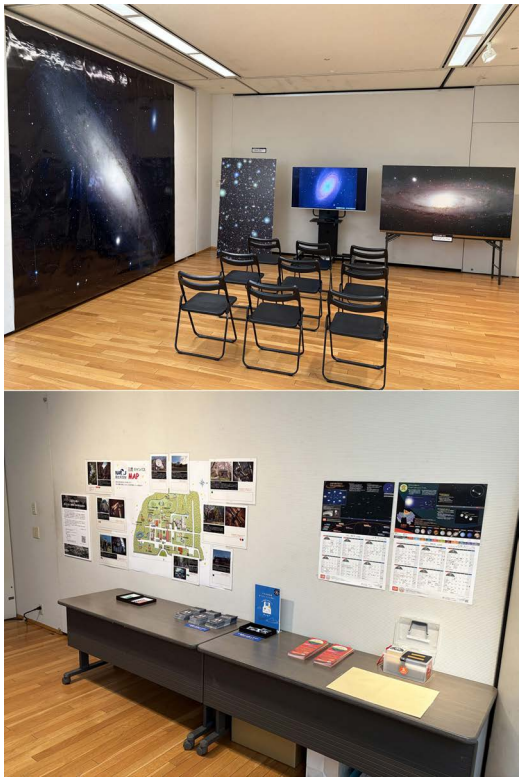

図3　特別展示会のようす.（クレジット：国立天文台）

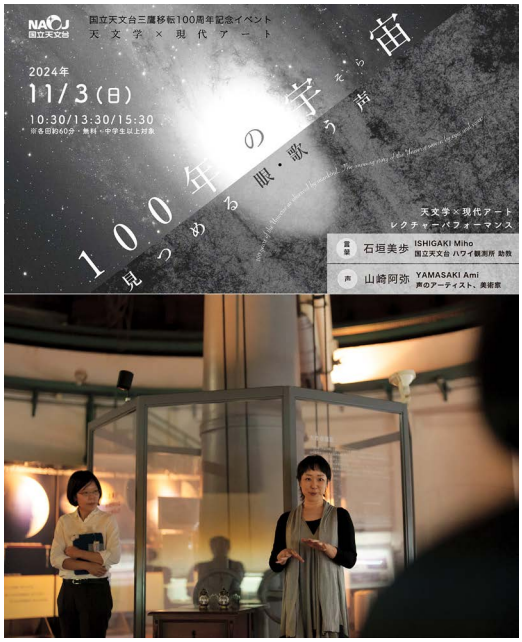

図4　（上）天文学×現代アートイベントの案内画像.
（下）当日の一コマ.（クレジット：国立天文台）

れた．解説パネル等に加えて，すばる望遠鏡で撮影された巨大な画像なども展示され，国立天文台の「いま」を伝える展示会となった．会期は短かったが，後ほど紹介するみたか太陽系ウォークの特別スタンプも設置され，来場客で賑わった（図3）.

天文学×現代アート＠国立天文台

11月3日には国立天文台三鷹キャンパス内の天文台歴史館において，「天文学×現代アート」と題して天文学者のトークと声の美術家によるパフォーマンスを実施した（図4）．天文台歴史館は床の重量制限があるために定員を多く設定できなかったこともあり，応募いただいた方々の抽選倍率がたいへん高くなったことは心残りだ．来場者には科学と芸術の融合を体感する時間を楽しんでいただいた.

みたか太陽系ウォークほか

10月18日から11月24日にかけては，三鷹市の秋を彩る恒例のイベント「みたか太陽系ウォーク」が開催された[*3]．13億分の1に縮小した太陽系は，三鷹市内にすっぽりと収まる．市内各所に設置されたデジタルおよびリアルのスタンプを集めて太陽系の広さを実感する人気企画だ.

2024年は天文台移転100周年を記念して，三鷹市芸術文化センターには特別なスタンプが前述の展示会会期中に設置された．国立天文台にも置かれた特別スタンプと合わせて押印すると，2月に実施される国立天文台特別ツアーなどの景品に応募できるという企画だ.

直径1 mの太陽が置かれた天文・科学情報ス

*3　https://www.taiyokei-walk.jp/（2024/12/1）

図5　みたか太陽系ウォークのオープニングセレモニーのようす．（クレジット：みたか太陽系ウォーク実行委員会）

ペースでは，10月19日に本イベントのオープニングセレモニーが挙行された．テープカット（図5）に続き，記念式典の時とは逆に，三鷹市から国立天文台への感謝状が三鷹市長から国立天文台長に手渡された．

このほか，11月30日には国立天文台三鷹キャンパスと同じ大沢町内にある株式会社SUBARU東京事業所の構内で市民向け観望会「SUBARUの中心ですばるを観よう！」が実施されるなど，天文台移転100周年を祝うイベントが数多く実施された．

これからの三鷹市と国立天文台

移転から100年，国立天文台は三鷹市の皆さんと協働し，地元の一員としての歩みを続けてくることができた．2009年に締結した三鷹市と国立天文台の相互協力に関する協定は，さらなる総合的な“ひとづくり”および“まちづくり”の推進に向けて2020年に更新されている．将来に向けて，国立天文台はこれからも地域に受け入れられる研究機関であり続けることを目指して活動を続けていきたい．

参考文献

[1] 河合章二郎, 1919, 天文月報, 12, 137
[2]「三鷹村新東京天文台」（一）（二）（三）, 1925, 天文月報, 18, 117, 136, 150
[3]「雑報」東京天文台移転, 1926, 天文月報, 19, 158
[4] 三鷹市教育委員会, 2010, モノトーンの記憶：写真集続・みたかの今昔：三鷹市市制施行60周年記念誌（三鷹市教育委員会）
[5] 三鷹市史編さん委員会 編纂, 2001, 三鷹市史
[6] 東京大学百年史編集委員会, 1987, 東京大学百年史 部局史三（東京大学出版会）

Ceremony and Various Events for 100th Anniversary of the relocation of NAOJ（formally TAO）to Mitaka

Hitoshi Yamaoka
Public Relations Center, National Astronomical Observatory of Japan, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan

Abstract　In 2024, the National Astronomical Observatory of Japan celebrated the 100th anniversary of its relocation to Mitaka. With the generous cooperation of Mitaka City, we were able to hold a number of commemorative events, starting with a commemorative ceremony. This paper introduces those events.